



SANJO ROTARY CLUB

三条ロータリークラブ

2007.10.10 (No.2475)
週報 No.14

第2560地区ガバナー／渡辺敏彦
会 長／荻根澤 隆雄
会長エレクト／中村和彦(クラブ奉仕A)
副 会 長／菊池 渉(クラブ奉仕B)
幹 事／杉山 幸英
S A A／浅野金治
会 計／山田 富義

例会日／毎週水曜日 12:30～
例会場及び事務局／
三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店内
例会場／TEL 34-3311
事務局／TEL 35-3477 FAX 32-7095

E-mail: sanjo-rc@cpost.plala.or.jp
http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/
(“はshiftを押しながら“へ”のキーを
押してください)

■本日の出席会員数:62名中45名
■先々週出席率:86.67%

【ヴィジター】

三条北RCより
・星野義男さん

【ゲスト】

・陶芸家 石田一平 様

【先週のメイクアップ】

【10.9】三条北RCへ
・熊倉昌平さん、斎藤弘文さん
【10.9】分水RCへ
・加藤紋次郎さん



「ロータリーは分かちあいの心」
2007～2008年度国際ロータリーのテーマ



キンモクセイ

会長挨拶

荻根澤隆雄 会長



ご挨拶を申し上げます。

秋の香りでもあります金木犀の芳香が盛り
の今日この頃です。

昨日の朝のNHKニュースで鳥取砂丘が
紹介されました。

内容は観光客が置き土産として捨ててゆ
くゴミが砂丘の景観を損ねているのこ
と、観光客のモラル低下を報じておりま
した。これは観光地の景観が破壊されてゆ
く、

ある種の環境破壊であります。モラル低下による景観破壊は
何処にでもあるような光景ですが、環境3R(リユース、リサ
イクル、リデュース)の中のリサイクルの代名詞でもありま
すPETボトルのリサイクルの話になりますが、題名が「環
境問題はなぜウソがまかり通るのか」という本の中で第一番
にPETボトルのリサイクル活動が寧ろ作るより7倍の資源を
消滅させると記してあります。環境も汚してますよ、ゴミも
逆に増えてますよ、と紹介されております。

PETボトルも含めゴミを分別することにより資源化され、
ゴミが減りエネルギーの省力に繋がっているかと思ってい
たらとんでもない状況になっているそうです。

そしてリサイクル法で誰が潤っているのか、誰が費用負担
をしているのかが克明に書かれております。ご興味のある方
は是非とも読んでいただきたいと思ひます。

そしてこのことからして、私たち国民は正しいことと思っ
て受け入れたことが後になってとんでもない方向に事が運ん
でいることに気付かずに、税金或いはお金を払っていること
が多々あることが問題と考えます。年金問題にしてもそうで
あります。ついでに明日は富山のエコタウンへ視察に行きま
すので、今一度PETボトルのリサイクルで本当に効果があ
るのか関係者に聞いてみようと思ひます。

来週は親睦旅行であります。どうか宜しくお願ひを申し上
げまして挨拶を終わります。ありがとうございました。

幹事報告

杉山幸英 幹事

- ◎次週10月17日は親睦旅行例会ですので、欠席の方は必ず事務局で記帳をお願い致します。
- ◎次々週は(10月24日)例会場はVIPですので、お間違いのないようよろしくお願い致します。
- ◎渡辺ガバナー事務所より、CLPセミナー開催のご案内が届いております。
と き 10月28日(日) PM12:00~
ところ ホテルオークラ新潟 4F コンチネンタル

ニコニコBOX

荻根澤隆雄さん

今日は会場が更に変わって、いつも以上に落ち着きません。

陶芸家の石田様よろしくお願ひ致します。

杉山幸英さん

今日は秋晴れです。

会場に来るまでは、メイクアップの気分でした。

石田様、卓話ありがとうございます。

山田富義さん

10月7日(日)、蔵王のお釜に行ってきた。標高1,700mにある、お釜付近の気温は午後2時頃で6度でした。

紅葉には少々早いようです。

高森章仁さん

よそのクラブにmake upしているような気分です。

船越正夫さん、若槻八十彦さん、石倉政雄さん、松永一義さん、佐藤 武さん、明田川賢一さん、金子俊郎さん

石田様卓話ありがとうございます。

楽しみにしております。

中村和彦さん

石田様卓話ありがとうございます。

都合により早退させていただきます。

渡辺勝利さん

所用で早退します。すみません。

10月10日分 ￥ 14,000
今年度累計 ￥481,000



卓話

陶芸家 石田 一平様



こんにちは。只今ご紹介にあずかりました石田です。

いつもお話しするのが100パーセント女性ですので、男性の前では緊張します。馴れないので宜しくお願いします。

家は田上です。今日覚えて戴きたいのが土生田焼と書きまして「はにゅうだやき」と読みます。なかなか読めないですね。

先代が田上でお世話になったのが昭和46年ですので、かれこれ40年くらい経つのですが、未だかつて新聞や報道で見るとは、今は羽生田は羽根の羽と書きますね。30年代では元々この次を書いています。

今日難しい専門的な話をしてしまいますと、わからないと思いますので、砕けた分かり易いようにお話しします。また、質問などありましたらお伺いしますので宜しくお願いください。

私の作品を見る機会など御座いましたか?白根に学習館というのが御座いますが、そこにモニュメントを作りました。

行くとわかりますが、1m60cmくらいのものを作りました。またビッグスワンの隣にあるスポーツ公園の遊歩道の中に、やはり7個くらいのモニュメントを作りました。

もっと分かり易いのは作品ではないのですが、お菓子の大阪屋さんのバームクーヘンのパッケージのデザインの原型を作りました。

最近はお茶の茶碗からモニュメントの作成まで幅広く携わってきまして、自分の能力をいかに発揮するかと毎日試行錯誤している次第です。

先代が亡くなりまして30年位になりますが、私が高校生ぐらいでしたから、その当時まだ家業を継ぎたいという気はなかったのですが、京都に香典返しに行った時、京都の仲間が心配してくれて、その後しばらくぶりで行ったらその時の仲間に出会って、私が2代目になりますけど、その仲間のなかで30代で継いで来た人とかいろんな人がおりました。その時のいろんな話から飛驒のいっしょに勉強した友達に25年ぶりに会いまして話したのですが、その時に何がどうなのかと話をしておりまして、そのあと現役でいられるのは10年20年だろうと、今自分たちがやってきた20年がどうだったろうと話をしているうちに何をやっていったらいいのか?何をどうしたらいいのか?の話しになりまして、やはり私達の仕事が品格のある仕事が必要で、面白いか楽しいかの仕事は減っていくものだと…。では品格をどうしたらいいのか?人間の問題として生活として物をどうやっていくのか?の話しになりまして、では自分たちは幸せなのか?どうかということをしていったのです。

私もそうですが人間誰しもそうですが、競争心が当然ありますので、将来競争している中で自分の道

を見つけていく。私も20年やって今の自分と競争できる環境を作ってくれたというのが20年やってきた証だろうと、今の自分なのだという話しになりました。それをいかに広めて行くか？如何に更に深めていけるかがこれから考えていかななくてはならないのではないかと考えております。では如何に自分の物を作っていくかの話しになります。

そんな見えない中で自分で一生懸命考えて想像して、できれば中に手を突っ込んで出せば一番いいんでしょけど出せませんので、自分の知恵と経験と想像で、できあがり想像しながら焼いていくというものが実際になりますので、今わたしたちの世界では釉薬という薬が人間でいうと着物なんです。土が人間です。土も世界中いろんな土がございます。その土によってこの色が小豆色になったり黒っぽくなったりします。わたしたちの仕事というのは総合プロデューサーで、この土にはどんな服を着せようか、どんなものに仕上げようかということを考え出す力がないと作家としては通用しません。ですから60歳70歳のおばあちゃんにミニスカートを無理矢理はかせても似合いませんね。それと同じように土は人、釉薬は着物、着付けが釜です。着方が、その3箇所を一生懸命考えて、ですから土も当然日本国内資源が減ってきていますから、先ほどのお話じゃないですがアフリカの土、ニュージーランドの土いろんな所で土が減ってきています。それはそれでそれなりにまた、自分で自分のやり方にあうかどうかと考えながら、今本当に原料、材料が世界中で減ってきてますから、その中でいかにプロデュースしていくか、そうなれば逆に今までなかったような物が出てきます。それが新しい伝統などになって新しい作品などを作っていきたいと思っています。

何かここでご質問とかないですか？

質問1「その青と赤どういう風に変えたんですか？」

回答1「これは多分金属の銅にあります。銅が主原料になります。銅というのは釜の中にいっぱい火を入れなければ青とか緑になります。釜の中にいっぱい火を詰め込むことによって紫から赤になります。そしてどこでどう火を入れる、どこで火をため込むかで赤になったり青になったりします。それが釜たきのテクニックです。ただ一番いいのは趣味としてやる分には、どういう風に焼いても赤、どういう風に焼いても青というように、安定した仕事はあまりよしとしません。不安定なというかちょっとした場所の加減で、色が違うなどのほうが割と皆様には受けます。というにはあそこでも見た、ここでも見たというのはいやがられますので、そういうこともあります。」

質問2「釜はどのような釜を使っていますか？」

回答2「釜はそれこそ一番最先端の釜から一番旧式の釜まで、最先端というかパソコンでプログラミングして、温度の上下差を制御するような釜もあります。それと同時に薪でたく釜があります。約1000年ちょっと前の釜から最先端の釜まで3種類ということになります。それを土によって注文主の発注の仕方に

よって釜をかえます。ただプログラミングするのは楽なようで形態を打ち込むのがなかなか大変で、穴をあけて薪でたくのですが、だいたい1回にたく薪の太さが筆1本くらいです。それがだいたい一番忙しいときで8分おきに10本いれます。それが50時間くらいつづきます。休みなしです。当然一人でやります。人間性ができますね。おもしろいもので、火というのを見続けると当然興奮してきます。水を見ると落ち着きます。火をずっと見続けると頭の中に火が出ます。寝ても目をつぶっても頭の中に火が出ます。そうなりますと人間性がおおらかな人、細かい人いろんな人間性がありますけれども、そういうものがすべて釜たきにできます。どこの段階で誰が焼いたかというのは、わたしは見てるとだいたいわかるんです。それくらい集中してやるものです。煙突の長い釜ですと詰めるのに1週間、焼くのが3日から5日、冷ますのが10日とだいたい3週間くらいかかります。」

こういうときになるとみなさんが気にするのが、製造原価はどうだとか、どういう商売をしているのかとよく質問を受けるんですけども、うちは田上でやっていますから、田上には旅館がありますので、そういう旅館さんがうちに来て言うんです。君の所はいいなあ、お客の方から頭下げて菓子折持ってくると。うちはお客の所に菓子折持って頭100回下げても来ないんだという話をするんですね。それでお前の所は山に登って土を掘ってきて焼いてそれを何万円もとるんだから、お前の所はいい商売だと言われますけれども、見えないところで悩んでいること、もがいたりすることもあるんです。まるまる5日間火を見続けるじゃないですか。そうすると大変なことになります。

まあそんなこんなでやっておりますけれども、それこそ今の商売の話にひっかけますと、ここ数年20年になりますけれども、最近ほんとに世間というのがわかりまして、一番最初のすべての原因というのが、緑化フェアの仕事がありまして、当時わたしは40才になったかならないかですから、おとなしくて、まじめだったんです。そのとき事務局に呼ばれまして「お前これは名誉なことだから、とりあえず見積を出して」と言われて初めて見積を書くわけです。今まで書いたことがありませんから必死で見積を書いて出したわけです。本人まじめですから真剣です。すごく公の仕事です。それでやったら事務局が競合してどこに発注するか決めますという話だったのですが、わたしが真剣に書いて持っていったら事務局長が、その場で即決で「石田さん気持ちをくんでくれてありがとう」と一言で決定。はんこをほんと押されました。それでわたしはそのとき確かにうれしかったのですが、後々聞いてみていろんな業者さんが集まります。わたしは7カ所の仕事を請け負ったのですが、みなさんにどういう風に話を請け負ったのか聞かれまして、これこれこういうって話をしましたらああ、そうって言われてゼロの数が違うって言われたんです。そのときにわたしもこういうことがあるんだということがわかりました。その次に公の

仕事に来たのが白根の合併の問題で、最初市の方で50万円ですってと言われました。もう前の時に学習してますので、それではできない、いい加減なものではできないから200万円と言ったんです。そうしたらああそうですかと通りました。こんなものかなあと思いました。

この前ある所の仕事で京都に行きました。社長さんがいらっしゃる前に、最初正体出さないんですね。発注の仕方としてはこんなデザインでこんな感じで作ってくださいと言われるのですが、絶対に本人は出てきません。それでこんな物作りしましたと持っていく。すると施主の方がもっと色を濃くしてくれとか言われて作りました。それで持っていくと契約書を見せられまして、言い値で買うからその後のことは何も文句は言うなというような契約書でした。それであまりおもしろくなかったので、人に気づかれないようにいたずら書きをしました。私の名前と焼き物の名前を書いたんです。それで通らして初めてそのときにある会社の社長さんが出てきて、ごろうさまでしたと、これを使わせてもらいますと言われました。喜んでわたしも絶対読めないだろう

と思って隠し文字で書いてあったのですが、製品になったときにはしっかり消してありました。それがいざ発売になりましたら、これは何だという問い合わせがたくさん来まして、あれほど意匠権を放棄しろと言って名前を出すなと言っていたにもかかわらず、去年の暮れだったと思うのですが、すみませんあんまり問い合わせが多いので、石田さんの名前を使わせていただきますと文章が来まして、今では箱の中に石田という名前が入っているそうです。いろんなことがあっていろんな風にもまれて、今現在先ほどの話ではないですけども、幸せに向けているのかなと思っています。最近では本当にうちの先代のころと時代が変わりました。全くお茶をしない方がお茶茶碗を買いに来たり、逆に5客組、10客組なんていうのはほとんど売れません。趣味も多様で数も多様になってきてます。そういうなかで自分らしさを消さないようにして、お客様の要望を聞いて自分の意見をどういうふうに活かしていくか、考えと想像力がないと、これからは残っていけないなと思います。ありがとうございました。

三條ローターアクトの活動

《活動報告》

- ◆9月30日(日) 13:00~16:30 障害者スポーツ教室・大会運営のサポート
(三條市総合福祉センター 多目的ホール)
- ◆10月4日(木) 19:30~21:00 三條ローターアクトクラブ10月第一例会
(リサーチコア4階 異業種交流プラザにて)
例会テーマ「憲法九条はホントウに守った方がイイ？」
戦後60年目を迎えた2005年、自衛隊のイラク派兵をきっかけに憲法についての踏み込んだ議論がはじまりました。例会では、憲法九条についてのVTRを見てもらった後、各々の感想を発表してもらいました。

《今後の活動予定》

- ◆10月13日(土) 6:15~6:45 丸井今井邸の清掃
- ◆10月14日(日) 10:30~12:00 第二回会長・幹事会議 (リサーチコア6階 研修室③)
- ◆10月14日(日) 13:00~14:30 第二回海外研修説明会 (リサーチコア6階 研修室③)
- ◆10月18日(木) 19:30~21:00 三條ローターアクトクラブ10月第二例会
(リサーチコア4階 異業種交流プラザにて)
例会テーマ「担当:クラブ奉仕委員会」

次週例会 10月24日 外部卓話 下田の森美術館 設立者 土田友江 様

次々週例会 10月31日 「職業奉仕月間」
外部卓話 「労働問題について」
(株)ビジネスセンター 代表取締役 佐藤啓策 様